

施策評価シート(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 7 月 22 日

施策No.	8	施策名	地域医療の推進と医療体制の構築
主管課名	子育て健康課	主管課長名	青柳健市
関係課名	総務課、町民福祉課		

施策の目的 【対象】	町民	対象指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 見込み	23年度 見込み
		人口	人	24,250	23,809	23,305	22,924	22,591	

施策の目的 【意図】	迅速で適切な医療を受けられるようにする。	成果指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標
		①必要なときに医療が受けられていると感じている町民の割合	%				85.2	83.6	
		②町内の診療所数	所	12	12	12	13		
		③住民一人あたりのベッド数	台	178	178	156	156		
成果指標の把握方法と算定式等	①、⑤町民アンケート ②実数をカウント ※診療所・・・病院＋診療所＋歯科医院 ③(月夜野病院＋上牧温泉病院)／人口 ④②で働く医師数／人口 ※常勤、非常勤問わず	④住民一人あたりの医師数	人	0.001	0.001	0.001	0.001		
		⑤かかりつけ医をもっている町民の割合	%				69.4	73.2	

成果指標設定の考え方	①必要なときに医療が受けられていれば医療体制に安心感をもっていると考え設問を設定。 ②診療所が多ければ医療体制がしっかりしていると考え。 ③ベッド数が多ければ 〃 ④医師数が多ければ 〃 ⑤かかりつけ医がいる人が多ければ、安心して医療が受けられている人が多いと考える。
------------	--

施策成果向上にむけた住民と行政との役割分担	1) 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと) ①かかりつけ医をもつように努める。  2) 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと) <町・利根沼田広域圏> ①医療を必要とする人に対し、医療体制を充実させる。 ②休日や夜間の緊急受け入れなど、より一層の救急医療体制の充実に努める。 ③医療機関との連携体制を強化し、町民への救急技術の普及などを図る。 <国・県> ①医師を確保する。
-----------------------	---

21年度の 評価結果	<p><b>1. 施策の成果水準とその背景・要因</b></p> <p>1) 現状の成果水準と時系列比較 (現状の水準は?以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)</p> <p>① 必要なときに医療が受けられていると感じている町民の割合はH20年度85.2%からH21年度は83.6と1.6ポイント減少となった。その要因は、町内のみならず沼田市についても医師不足となっているためと考えられる。</p> <p>② 町内の診療所数はH20年度12カ所、H21年度13カ所で1カ所増加した。(歯科診療所)</p> <p>③ 住民一人あたりのベッド数はH20年度156、H21年度156で変わらない。</p> <p>④ 住民一人あたりの医師数はH20年度11、H21年度12で微増となっている。</p> <p>⑤ かかりつけ医をもっている町民の割合H20年度69.4%、H21年度73.2%で3.8ポイント増加している。個別(かかりつけ医)に精密検査を行うようになったことも要因のひとつであると思われる。</p> <p>2) 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)</p> <p>① 診療所数は、県内自治体と比較すると少ない。県内町の平均は9.6箇所となっている。</p> <p>② 一人あたりベッド数については多いが、これは温泉病院があるためである。</p> <p>③ 一人あたり医師数については、県内町の平均的数である。</p> <p>3) 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?</p> <p>① 町内においては満足している。</p> <p>② 専門医について利根沼田圏域において少ないため要望がある。</p>
	<p><b>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括</b></p> <p>1) 利根沼田広域市町村圏整備組合負担金事業(巡回診療運営費負担金、夜間小児救急対策費負担金、在宅当番医運営費補助金、休日急患診療負担金、病院群輪番制運営費負担金、看護師就学資金貸付事業負担金)があり、地域医療の安心感向上に寄与している。</p>
	<p><b>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</b></p> <p>1) 医師の確保</p> <p>2) かかりつけ医をつくることは大切であるが、現在の水準が70%であり高水準であることから現状維持。</p> <p>3) 広域圏の実施する救急救命講習会については、講習受け入れ体制がよく整っており、多くの住民に受講を勧めるよう周知する。</p>